

社会経済的地位と対象の異なる利他行動の関連性

○辻翔瑛・井草薙邦広
(県立広島大学院総合学術研究科)

問題と目的

社会経済的地位 (SES) と利他行動の関連には、主に 2 つの対立する理論的予測が存在する。1 つは、低 SES 者が厳しい環境への適応として他者への共感や平等主義的価値観を育み、状況によらず利他行動を示すとする共感モデル (e.g., Piff et al., 2010) である。もう 1 つは、利他行動を評判獲得のためのコストのかかるシグナルと捉え、特に高 SES 者が「公的」な状況で評判のために利他行動を示すとする評判モデル (e.g., Griskevicius et al., 2010) である。本研究の目的は、日本人大学生を対象とし、SES が対象 (家族・友人・他人) の異なる利他行動を予測するか、この効果が評判懸念 (賞賛獲得・拒否回避) によって調整されるかを検討することであった。

方法

大学生 106 名 (暫定データ) を対象にオンライン質問紙調査を実施した。測定尺度として、独立変数である SES については客観的 SES (e.g., 文学・美術作品の有無)、および主観的 SES として現在の SES3 項目、幼少期 SES3 項目 (Yanagisawa et al., 2011)、マッカーサー尺度 (Adler et al., 2000) を測定した。従属変数は対象別利他行動尺度 (小田他, 2013) を用い、調整変数として、賞賛獲得・拒否回避欲求尺度 (小島他, 2003) を用いた。

分析手続きとして、まず SES 関連 10 項目について主成分分析を行った結果、第 1 主成分 (SES1) は SES 全体、第 2 主成分 (SES2) は現在の SES および客観的 SES に高い負荷量を示した。次に、従属変数それぞれに対し、SES 主成分得点と賞賛獲得・拒否回避欲求の尺度得点を投入する重回帰分析を行い、主効果モデル (M_1) と交互作用のあるモデル (M_2) を比較した (Table 1)。

結果と考察

重回帰分析の結果、いずれの対象への利他行動に対しても、SES1 の有意な主効果は観察されなかった。また、 M_2 において SES と評判への懸念の交互作用項はいずれも有意ではなかった。 M_1 と M_2 のモデル比較 (ANOVA) においても有意差はみられず、評判モデルの予測 (調整効果) は支持

されなかった。一方で、賞賛獲得欲求は、SES の高低とは独立して、友人への利他行動 ($\beta = .33, p < .001$) および他人への利他行動 ($\beta = .23, p < .05$) に対して、一貫して有意な正の主効果を示した。また、SES2 が友人への利他行動に対してのみ正の有意傾向を示した ($\beta = .12, p = .081$)。

本研究の暫定的な結果では、SES が利他行動に与える影響について、共感モデル・評判モデルのいずれの予測も支持されなかった。この結果は、SES と利他性の関連を示した先行研究とは異なるものであった。一方で、利他行動の対象が友人や他人である場合、個人の SES にかかわらず、他者からよく思われたいという賞賛獲得欲求が一貫して利他行動を予測することが示された。この知見は、評判懸念と利他行動の関連性を示した国内の先行研究 (e.g., Kawamura & Kusumi, 2018) と整合的であった。また、探索的に示された現在の資本と友人への利他行動の関連は、現在利用可能な資源が利他行動の原資となっている可能性を示唆する。しかしながら、本研究は暫定データによるものであり、今後はサンプル数を増やし、結果の安定性を確認する必要がある。

主要引用文献

Piff et al. (2010). *J. Pers. Soc. Psychol.*, 99(5), 771–784.

Table 1
友人・他人への利他行動に対する重回帰分析

	家族		友人		他人	
	M_1	M_2	M_1	M_2	M_1	M_2
年齢	-.093	-.097	-.131	-.133	.141	.130
女性	.175	.201	.378	.416	-.032	-.026
SES1	.053	.054	.089	0.089	.053	.057
SES2	.112	.115	.120	.125	.033	.027
賞賛獲得	.041	.028	.328	.313	.227	.212
拒否回避	.164	.161	.038	.029	-.069	-.053
賞賛×SES1		.012		-.005		.088
拒否×SES1		-.046		-.055		-.053
R^2	.030	.017	.188	.180	.019	.027

注: Bold: $p < .10$, 性別を除く独立変数は標準化して投入した。